

報道各位

---

---

## 福岡ユビキタス特区で「地方ブロック向けマルチメディア放送」実験 新規参入企業と連携して番組・新サービス開発本格化 ～モニター募集し、受信端末 200 台を無償配布～

---

---

福岡ユビキタス特区(註1)(註2)の実験試験局免許が、2009年3月31日付け交付されました。これを受け、TOKYO FMとJMデジタルメディア社は、共同で「3セグメントマルチメディア放送サービス」の実験を本格化します。

TOKYO FMは、エイベックス・マーケティング、よしもとファンダンゴ、ぐるなび等とともに、2011年以降スタートする「地方ブロック向けマルチメディア放送」(註3)のコンテンツを先取りするものとして、共同で開発して参ります。

JMデジタルメディア社(註4)は、携帯電話型受信端末200台をTOKYO FMに提供し、TOKYO FMはその端末を、地元ラジオ局「FM FUKUOKA」のリスナーの中で希望する方に、無償で配布し、本「3セグメントマルチメディア放送サービス」実験のモニターとして参加していただく予定です。

TOKYO FMが収集・蓄積した、モニターの方々の声、利用実態調査、アンケートなどの各種実証データは、JMデジタルメディア社が分析・活用し、通信・放送融合時代にふさわしい、ユーザにとって魅力的な「3セグメントマルチメディア放送サービス」構築に役立てていく予定です。

さらに、本実験で得られた結果等は「VHF-LOW帯マルチメディア放送推進協議会(VL-P)」と共有し、VHF-LOW帯での技術運用規定の策定に貢献していきたいと考えております。

2011年以降にアナログテレビが終了した跡地の周波数であるVHF-LOWを使って、全国でスタートする「地方ブロック向けマルチメディア放送」は、「ラジオでもなくテレビでもない全く新しい放送免許」として、既存のラジオ局にとどまらず、データ放送を駆使した新しいサービスを実現したい新規事業者の参入希望が相次いでおります。

今般、福岡ユビキタス特区の環境を活用して、その準備としてコンテンツ開発する企業として、

- 1) エイベックス・マーケティング株式会社 “新・オンガク生活【mu-mo】”
- 2) 株式会社ぐるなび
- 3) 株式会社よしもとファンダンゴ

(社名は五十音順) 3社の新規参加が決定しました。各社が福岡ユビキタス特区の場を使って実施する実験内容は以下のとおりです。

### ＜エイベックス・マーケティング “新・オンガク生活【mu-mo】”＞

高音質でハイクオリティーな映像番組を流せる面に着目、携帯型受信機での中心視聴者を「音楽・映像に関心の高い若者」と仮定し、16:9のフル画像で楽しめる音楽番組を配信する。データ放送と連動して、同時に携帯電話による通信を使うことで、マーケティング調査やCD・イベントチケットなどの物販ビジネスを先行開発する。

### <ぐるなび>

全国一律情報を配信するV-HIGHの「全国向け放送」と異なり、地域密着した情報をニーズに合わせて配信することが出来ることが「地方ブロック向けマルチメディア放送」の長所。放送波でIPコンテンツをそのまま配信することができる「IPデータキャスト」の技術を使って、既に携帯やPCのインターネット上で提供している店舗情報などのコンテンツを、放送波でプッシュ配信する。

### <よしもとファンダンゴ>

TOKYO MXを始めとして、県域局で放送しているテレビ番組「水野キングダム」は、放送番組と連動し、ワンセグ携帯向けにコンテンツを通信波で配信している。「福岡ユビキタス特区」では、コンテンツを放送波でダウンロード配信して携帯電話で課金できるインフラがあるので、吉本興業グループの携帯向けオリジナルコンテンツをプッシュ配信して、視聴者の購買動向について調査し、ノウハウを蓄積する。

また今回、上記3社が新規に実験参加するに当たっては、三井物産、ジャパンエフエムネットワーク（JFN）、NECビッグロープ、TOKYO FM 4社が共同出資している「株式会社JMデジタルメディア社」が、TOKYO FM若しくはFM FUKUOKAを介して携帯電話型受信端末を200台提供し、モニターに無償で貸与します。本実験のユーザデータは、JMデジタルメディア社が分析・活用し、来るべき2011年に向けて、インターネット、モバイル等通信との連動も含めたサービス開発や、メーカーへ情報を提供することにより、送受信機器開発に反映して参ります。

（註1）「ユビキタス特区」とは

2008年1月、総務省の「ICT改革促進プログラム」および「ICT国際競争力強化プログラム」に基づいて創設されたもの。新たな電波利用が必要な事業に対して実験局免許を交付するなどの環境整備を行ない、革新的なサービスの開発・実証実験を支援する事業として、2007年9月4日から10月31日までプロジェクトを募集。188件の提案が寄せられていた。

（註2）「福岡ユビキタス特区」とは

「地方ブロック向けマルチメディア放送」の先行実験を実施するために、TOKYO FMと株式会社CSK-1Sが「ISDB-Tsbの拡張による3セグメント放送方式の実験」を共同提案した。2008年1月25日国の第一次指定が発表されたが、「福岡ユビキタス特区」はそのとき指定された22地区の一つ。2009年3月31日（火）、九州総合通信局より「実験試験局」免許を付与され、現在は最大出力250ワットで電波発射をし、6セグメント（3セグメント放送×2）のサービス実験を展開している。

（註3）「地方ブロック向けマルチメディア放送」とは

2011年7月24日に現行アナログテレビ放送が地上デジタル放送に移行した「跡地」である周波数、VHF-LOW（現行1ch-3ch）を使って開始することが予定されている。現在の案では、全国を7ブロックに分け、それぞれ異なる周波数をつかうこととされている。

（註4）「JMデジタルメディア」とは、

2007年9月、ジャパンエフエムネットワーク（JFN）と三井物産が、3セグメントマルチメディア放送でのビジネス展開を目指す新会社として設立。2008年12月に、NECビッグロープとTOKYO FMが資本参加し、TOKYO FMが実施する福岡ユビキタス特区での携帯端末向けマルチメディア放送における実証実験にJFNC、BIGLOBE及び三井物産が参加することとした。2011年には、VHF-LOWの周波数で制度化される予定の「地方ブロック向けマルチメディア放送」のソフト事業において、新規参入企業が展開する新しいサービスとともに、全国のAM・FM等既存ラジオ局がそれらのサービスと連携し、新たな役割を担うことができるような事業スキームの確立を目指している。

(JMデジタルメディア関連 参照サイト)

株式会社JMデジタルメディア <http://www.jfn.co.jp/jmd/>

三井物産株式会社 <http://www.mitsui.co.jp/>

株式会社ジャパンエフエムネットワーク [http://www.jfn.co.jp/jfn\\_top/company/](http://www.jfn.co.jp/jfn_top/company/)

NECビッグロブ株式会社 <http://www.biglobe.co.jp/index.html>

(新規参加企業 参照サイト)

エイベックス・マーケティング株式会社 <http://www.avex.co.jp/>

株式会社ぐるなび <http://www.gnavi.co.jp/>

株式会社よしもとファンダンゴ <http://www.fandango.co.jp/>

(参考)

ユビキタス特区の創設について (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/2008/080125\\_5.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2008/080125_5.html)

VHF-LOW帯マルチメディア放送推進協議会 <http://vl-p.jp/>